

## 「桃山学院大学学生論集」第26号の発刊にあたって

学長 明 石 吉 三

学生懸賞論文、学生研究発表大会の入賞者の皆さん、おめでとうございます。

今回、復刊第26号となる「学生論集」ですが、学生懸賞論文の応募本数は57編となり、昨年度の92編から大きく減少しました。これは、世の中の不況に伴う厳しい就職活動が、大学教育、とりわけ論文作成の中心となるゼミにも大きく影響していることのあらわれであると推察します。そのような中、今回、学生懸賞論文に応募された57個人・グループの皆さんに敬意を表するとともに、学生研究発表大会への参加者が増え、25グループ・個人の発表が行われたことを嬉しく思います。

先ず、今回の応募状況ですが、学生懸賞論文では、所属ゼミ・テーマで分類した学部別の投稿件数は、経済25編、社会18編、経営6編、文・国際教養6編、法2編となり、一方の学生研究発表大会では、経済、社会、経営の3学部からの参加がありました。

次に、審査結果ですが、学生懸賞論文では、今号も学長特別賞の該当はなく、優秀作2編、佳作2編、準佳作5編という結果でした。学生研究発表大会については、優秀賞1名、佳作9グループ、準佳作8グループ・個人となっています。選外になった作品にも高く評価できるものが少なくなかったと聞いております。

本学では、多様な懸賞・顕彰・奨励制度を設け、学生の自主的な活動を奨励しております。その中で、学生懸賞論文、学生研究発表大会は、本学が他大学に誇ることができる制度とも言えます。学生懸賞論文は、先述のとおり、今号は復刊第26号ですが、その前身となった「経済学論集別巻学生論集」(1965年発刊)から数えると通算第39号となります。また、他大学では学

部単位での実施が多い中、本学では全学で実施しております。学生懸賞論文は、その歴史からも、実施の面からも他大学に誇ることができる制度なのです。また、学生研究発表大会についても、学生が実行委員会を組織し、自主的に運営することを尊重し、着実に発展を続けています。本学では、今後も、勉学面はもちろん、多様な面において学生諸君のやる気を支援していきたいと考えています。学生懸賞論文、学生研究発表大会についても、益々の発展を期待いたします。

最後になりましたが、学生懸賞論文、学生研究発表大会の準備、運営にご尽力された学生諸君、ならびに教員、職員の方々に、感謝申し上げます。